

# 北陸地域における渡来系遺物群の集成

新村いづみ 松尾 実

はじめに

近年の古墳時代研究は、東アジアからの視点で日本の社会像に迫った研究成果が多く発表されている<sup>(注1)</sup>。従来から、古墳の主体部から出土した武具、装身具、威信具等の個別研究等から朝鮮半島への系譜や政治的交流・交易が指摘され、さらに、韓式系土器研究等の成果<sup>(注2)</sup>からも、陶質土器の系譜、軟質土器の動向、須恵器の生産・流通等の研究が行われてきた。一方、北陸地域<sup>(注3)</sup>での研究状況は、数少ない研究者によって古墳研究が深化されているが、集落等については低調といえよう。ただし、南加賀地域を中心に発見されたL字形竈を付設する建物の発見を契機に中国大陆や朝鮮半島へも目を向けられ、韓式系土器等が注目されつつあるが、それらの基礎作業が行われておらず、社会的動態等について言及されていないのが現状である。そこで、本稿では北陸地域における現時点での状況を把握・整理するため、渡来系遺物群を中心に集成を行うことを主目的として、基礎データの提示と、若干の検討を行いたい。

渡来系遺物の名称については、渡来人<sup>(注4)</sup>によってもたらされた多様多様な土器の総称とし、主に土師器の移動式竈・甗・朝鮮系軟質土器、須恵器の甗・角杯形土器等の特徴的な遺物を集成する。なお、渡来人と密接に関わるL字形竈を付設した建物も検討対象に含めた。また、須恵器生産の拡散期に多大な影響を与えたと考える初期須恵器<sup>(注5)</sup>にも注目し、それらとの関係性等の検討を試みるために集成の項目に入れている。検討の対象時期については、古墳時代（前期・中期・後期・終末期）とし、主に田辺編年<sup>(注6)</sup>に準拠する。

本稿は、新村いづみと著者が幾度と勉強会を行い、その成果をまとめたものである。本文中の構成や内容については両者で協議を行った。各文の終わりには名前を記して文責とする。（松尾）

## 1. 研究略史

管見であるが、北陸地域における渡来系遺物群の中では、福井県三方市獅子塚古墳出土の角杯形土器を研究の端初となす<sup>(注7)</sup>。その後、研究は低調になりつつも、1990年代から活発に議論が行われるようになる。以下では、北陸地域での個別に研究成果をまとめてみたい。

### i) 陶質土器

陶質土器の分布は一部能登地域に見られる他、古川登氏、入江文敏氏、川本紀子氏の集成<sup>(注8)</sup>により、越前・若狭地域に集中することが指摘されている。初期須恵器との区別が難しいことから、未だ未確定の遺物も少なくない。

### ii) 初期須恵器

田嶋明人氏は共伴した須恵器による土師器編年の視点から初期須恵器の供給状況と地域相について言及した<sup>(注9)</sup>。吉岡康暢氏は加賀・能登地域においてその移入時期・遺跡・器種別に出土傾向を試みた。その結果、主に集落・古墳から出土し、出土頻度はほぼ同等、古墳祭式で多用される傾向があり、集落での使用に先行する、用途に応じた器種の選択が行われた、陶邑産が大半を占める、等を指摘した。さらに、分布状況から在地生産の前段階における流通機構の存在を示唆した<sup>(注10)</sup>。以降、初期須恵器の研究は、流通の問題に関連付けて行われる傾向にある。

### iii) 移動式竈

田嶋明人氏は5世紀末～6世紀初頭を中心に、古墳時代に比定できるものは能登に集中し、7世紀からは北陸全体に分布する傾向を指摘した<sup>(注11)</sup>。また、樫田誠氏は能登一帯で5世紀末に集中する特異な状況について、同時期に盛行する製塩と王権への貢納に関わる儀式に関連するものとした<sup>(注12)</sup>。田中昌樹氏は甕形土製品として集成し、日常的に使用されたものではないこと、肩部が張る、凸帯をもつ、煙孔、把手孔をもつ等の役割や具体的な形態的特徴をまとめた。8世紀の出土品については、都城の律令祭祀とは異なる、火に係わる祭祀として使われた可能性を指摘した。また、額見町遺跡等の渡来系集団に関連した遺跡出土のものに関しては、二世、三世による製作を指摘している<sup>(注13)</sup>。

### iv) 角杯形土器

6世紀を中心に美濃、若狭、加賀、能登等の地域に集中することから、継体伝承と結びつける説や、「日本書紀」垂仁紀にみえる渡来人説話との関連<sup>(注14)</sup>で考えられている。興道寺窯産の角杯が獅子塚古墳から出土したことについて、田辺昭三氏は地方窯と地方首長の関係性を指摘している<sup>(注15)</sup>。なお、具体的な用途については、朝鮮半島や大陸等の資料から類推した論考が見られる<sup>(注16)</sup>。建物からの出土例があることから、集落内での特異性について検討する必要がある。

### v) 朝鮮系軟質土器

望月精司氏は額見町遺跡出土の朝鮮系軟質土器について北陸型煮炊具の祖型として評価し、7世紀前半の白山市北安田北遺跡や加賀市千崎遺跡等で「朝鮮系軟質土器」と認識できる資料があることを指摘した。また、7世紀後半にみられる在地型土器の画期について、前段階に渡来系集団の地域参入と朝鮮系軟質土器の影響を考えた<sup>(注17)</sup>。これに関連して、樫田誠氏は、横穴系埋葬施設成立の様相に注目し、渡来系集団をはじめとした工人を一括する一定層が、横穴系の墓制を携えて地域参入を行ったと推測している<sup>(注18)</sup>。川本紀子氏は、福井市和田防町遺跡出土の軟質土器を検討し、在地土器に対する割合が極めて少ないことと、5～6世紀の緊迫した国際状況からそれらを「特殊な位置」を示す可能性を提起した<sup>(注19)</sup>。

(新村)

## 2. 渡来系遺物群の個別検討

北陸地域において、渡来系遺物群が出土した遺跡は、管見で124遺跡を数えることができた。総じて水系ごとの主要な古墳群が付近にある集落や海辺・山間部から出土していることが看取される。

今回、検討するのは、渡来系工人に関係する陶質土器、初期須恵器、生活する場のL字形竈を付設する建物(住居)、日常生活で使用する道具で、煮炊具の移動式竈・甕、朝鮮系軟質土器、特殊な用途の角杯形土器等を対象としたい。本来ならば、個別実証的な作業手続きが必要不可欠であるが、今回は集成を基に傾向と特徴を概観する。ただし、個々の時期等は訂正している。集成に際しては、遺跡の所在地、立地、層位・遺構、遺物の種類、時期などの項目を設定し、基礎データとした。遺跡の性格は集落の存在が想定できる遺跡もその範疇に入れている。

### i) 陶質土器・初期須恵器

陶質土器とは、朝鮮半島で製作され日本に舶載された還元焰焼成の焼物とされ、一方、日本で製作された初期須恵器は、陶質土器の技術系譜上にあり、窖窯による還元焰焼成の焼き物とに分けて考えられている。ここでは、須恵器が定型化されるまでのTK208型式以前の範

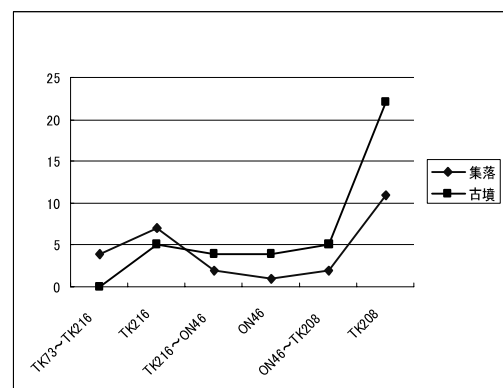


表1 初期須恵器 時期別量的変遷図

初期須恵器集成									
遺跡名	性格	層位・遺構	時期(型式)	出土土器					
相川中1号墳	古墳	墳丘	TK216	甕、杯身、杯蓋					
流通業務団地NO7遺跡(5号墳)	古墳	墳丘	TK216	甕					
流通業務団地NO7遺跡(6号墳)	古墳	周溝	TK216	有蓋高杯身					
上野1号墳	古墳	墳丘(採集)	TK216	大型甕					
向出山古墳2号墳	古墳	墳丘(採集)	TK216	壺、埴					
和田山5号墳	古墳	墳丘	TK216～ON46	甕					
和田山22号墳	古墳	周溝	TK216～ON46	甕					
茶臼山1号墳	古墳	墳丘	TK216～ON46	台脚付短頸壺					
茶臼山12号墳	古墳	墳丘	TK216～ON46	杯蓋、甕、甕					
二子塚10号墳	古墳	周溝	ON46	甕					
二子塚19号墳	古墳	周溝	ON46	甕、杯身、器台					
二子塚29号墳	古墳	周溝	ON46	壺					
鳥越山古墳	古墳	不明	ON46	蓋、有蓋高杯、甕、甕、器台					
二子塚16号墳	古墳	周溝	ON46～TK208	甕					
二子塚20号墳	古墳	周溝	ON46～TK208	甕					
二子塚21号墳	古墳	周溝	ON46～TK208	短頸壺					
二子塚33号墳	古墳	周溝	ON46～TK208	杯身					
城光寺B2号墳	古墳	墳丘、周溝	ON46～TK208	甕					
イコダノヤマ3号墳	古墳	墳丘	TK208	杯身、蓋、甕、甕等					
吸坂丸山5号墳	古墳	周溝	TK208	蓋、甕、蓋					
国分高井山4号墳	古墳	周溝	TK208	杯蓋					
赤浦古墳群	古墳	墳丘(採集)	TK208	有蓋高杯					
小竹ガラボ山古墳	古墳	墳丘	TK208	甕、器台					
茶臼山3号墳	古墳	周溝	TK208	大型甕、甕、甕					
茶臼山6号墳	古墳	墳丘、周溝	TK208	有蓋高杯					
和田山4号墳	古墳	周溝	TK208	杯、有蓋高杯、甕					
寺井山1号墳	古墳	墳丘(採集)	TK208	甕、甕					
二子塚23号墳	古墳	周溝	TK208	甕、甕					
二子塚36号墳	古墳	周溝	TK208	甕、甕					
寺山古墳	古墳	墳丘(採集)	TK208	杯蓋、身、高杯					
中川10号墳	古墳	墳丘(採集)	TK208	器台					
西塚古墳	古墳	墳丘	TK208	高杯					
村国山2号墳	古墳	古墳(採集)	TK208	甕、壺					
太田山古墳群	古墳	墳丘表土	TK208	高杯					
6号方形周溝墓	古墳	墳丘表土	TK208	高杯					
蟻子山古墳群	古墳	不明	TK208	大型甕					
飯綱山古墳群	古墳	不明	TK208	大型甕					
下山1号墳	古墳	石室内	TK208	大型甕					

陶質土器					
遺跡名	性格	層位・遺構	時期	出土土器(種類)	
剱神社隣接地遺跡	集落	不明	5C後～6C初	蓋、高杯	
奥原遺跡	集落	包含層	6C	器台	
当山美濃峠古墳	古墳	不明	6C前～前葉	高杯	

表2 初期須恵器・陶質土器一覧表

移動式甕					甕				
遺跡名	性格	層位・遺構	時期	備考	遺跡名	性格	層位・遺構	時期	備考
柳田遺跡	集落	不明	5C末		二口かみあれた遺跡	集落	包含層、溝	4C	
畝田・寺中遺跡	集落	溝	5C末～6C初		千代・能美遺跡	集落	河道	4C	山陰系/小型
高田遺跡	集落	土器窯(祭祀)	5C末～6C初(TK216～TK47)		漆町遺跡	集落	溝	5C後半	
千崎遺跡	集落	住居	5C後～6C初		美岬・千崎B遺跡	集落	柱穴、土坑	5C後半	
水白モンショ遺跡	集落	包含層	5C末～6C前		潮津金場遺跡	集落	住居、土坑	5C後～末	
下開発遺跡	集落	包含層	5C末～6C前		柳田遺跡	集落	不明	5C末	
神代羽連遺跡	集落	不明	5C末～6C前		谷内ブンガヤチ遺跡	集落	包含層	5C	
中村畑遺跡	集落	溝	5C後～6C前		神野遺跡	集落	溝	5C	
矢田遺跡	集落	溝	5C末～6C		神代羽連遺跡	集落	不明	5C末～6C前	
久江C遺跡	集落	排水溝掘削	5C～6C		畝田・寺中遺跡	集落	溝	5C末～6C初	
曾福遺跡	集落	不明	6C		曾福遺跡	集落	不明	6C	
指江B遺跡	集落	河道	6C		指江B遺跡	集落	河道	6C	
中尾新保谷内遺跡	集落	不明	6C		弓波遺跡	集落	川跡	6C	
弓波遺跡	集落	川跡	6C		念仏林南遺跡	集落	住居	6C	
奥原遺跡	集落	包含層	6C		松山C遺跡	集落	柱穴、溝	6C～7C?	
細口源田山遺跡	集落・古墳	包含層	6C後		額見町西遺跡	集落	住居	6C末～7C初	
吉見浜遺跡	集落	不明	6C後～7C初		柳田シャコデ遺跡	集落	住居	7C初	
浜禰遺跡	集落	不明	6C後～7C初		四柳白山下遺跡	集落	包含層	7C初	
利田横枕遺跡	集落	包含層	6C後～7C初		徳久荒屋遺跡	集落	包含層、柱穴	7C前	
麻生谷新生園遺跡	集落	溝、住居	6C末～7C初		下開発遺跡	集落	包含層	7C前	
貝田C遺跡	集落	落ち込み	6C～7C		額見町遺跡	集落	住居	7C前半、中葉	
松山C遺跡	集落	柱穴、溝	6C～7C?		田上西遺跡	集落	竪穴住居	7C	
藤橋遺跡	集落	溝	7C前		犀川鉄橋遺跡	集落	不明	7C	
三室福浦B遺跡	集落	溝、包含層、鞍部	7C前		篠原遺跡	集落	土坑、包含層	7C	
額見町遺跡	集落	不明	7C前半、中葉		春木泰谷遺跡	集落	土坑・包含層	7C後半	
薬師遺跡	集落	住居	7C中		北安田北遺跡	集落	包含層、住居	7C中～8C中	
古府タブノキダ遺跡	集落	柱穴	7C		沢ソウダケ遺跡	集落	不明	7C～8C	
末松A遺跡	集落	包含層	7C		太田ツツミダ遺跡	集落	不明	7C～8C	
曾祢C遺跡	集落	河道、包含層	7C		寺家遺跡	集落	包含層、溝外、住居	7C～8C	
高畠テラダ遺跡	集落	不明	7C		赤浦やまあと遺跡	集落	製塩遺構	8C	
北安田北遺跡	集落	包含層、溝、住居	7C中～8C中		武部ショウブダ遺跡	集落	包含層	8C	
寺家遺跡	集落	包含層、溝外、住居	7C～8C(TK47)						
末松ダイカン遺跡	集落	住居	7C末～8C初						
万尾遺跡	集落	不明	7C～8C前						

表3 移動式甕・甕一覧表

囁で捉える<sup>(注20)</sup>。

陶質土器についての報告例は、北陸地域で3例を数えることができるが、確実な陶質土器とするには慎重になる必要がある。しかし、初期須恵器としても、技法、文様等の特徴から朝鮮半島の中でも系譜が追えるものもあり、類似品があることから、北陸地域でも特に若狭・越前地域では渡来系工人が移入し在地窯で製作した可能性が高い。

初期須恵器については、散見的に出土しており、古墳・集落に分けて量的変遷を検討する。まず、古墳ではTK208期に増加する傾向がある。各地域で形成された古墳群の中でもこの傾向は、捉えられ、従来の祭式に須恵器の供献具としての役割が高まったといえよう。それ以降となると、既往研究<sup>(注21)</sup>で示されたようにTK23～47期で、より増加することが認められる。器種は、杯、高杯、壺、甕、甗等が出土しているが、甕、甗の出土率が高い。中でも貯蔵具として機能性が優れている甕の有効性が認められていることを示す。一方、集落からはTK73期で散発的に出現する。TK216期からは低調であるものの、TK208期で増加する。特に、三湖台地域では該当時期に分布が密となる現象は、政治的基盤・その後の須恵器生産等を考える上で示唆的である。また、分布状況からは、若狭・越前地域で、新羅系の土器が出土している他、各地域の主な水系の流域ごとに構築された主要な古墳群と集落から出土していることが指摘できる。

#### ii) 建物

L字形竈を付設する建物は、北陸地域の中でも南加賀地域の特定できる地域で発見されている。この竈については、その系譜を高句麗等の朝鮮半島北部や朝鮮半島南部に求める論考がある<sup>(注22)</sup>が、いずれにせよ、系譜を辿れる渡来人の生活痕跡として認めることができる。当該遺構は現在のところ、特定の地域に6世紀末～7世紀初頭に出現し、建物形態を変えながらも構築され、短期間で終焉する状況が看取される。その事象はその地域における政治的・生産的動向を考える上で示唆に富む。

#### iii) 移動式竈

移動式竈は古墳時代中期に出現し、甑と甕（鍋）をセットとして使用する煮炊具の一つで、新しい生活様式の特徴的な土器といえよう。6世紀になると一定量存在する。形態的特徴を見ていくと、能登地域と加賀地域では地域性が認められ、加賀地域でもさらに小地域によって特性が見出される。また、底部の製作技法にも特徴があり、多様性が認められる。

#### iv) 甑

移動式竈と甕（鍋）をセットとして使用される煮炊具の一つである。前期には弥生土器の系譜を引いた底部に穿孔した甕を使用していた例が散見されるが、5世紀後半から筒状の体部をもち、底部に孔がある把手のついた土器が増加傾向を示す。特に、指江B遺跡出土の甑の把手には切り込みが認

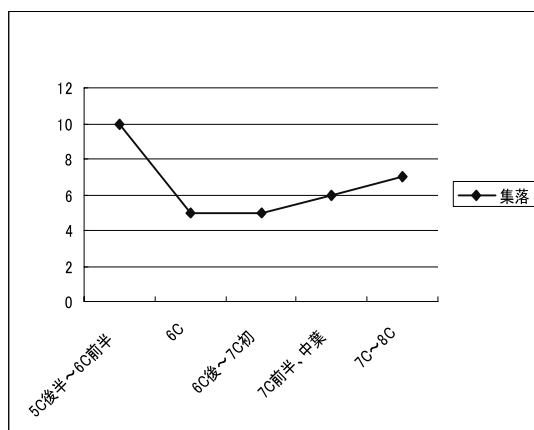


表4 移動式竈 時期別量的変遷図

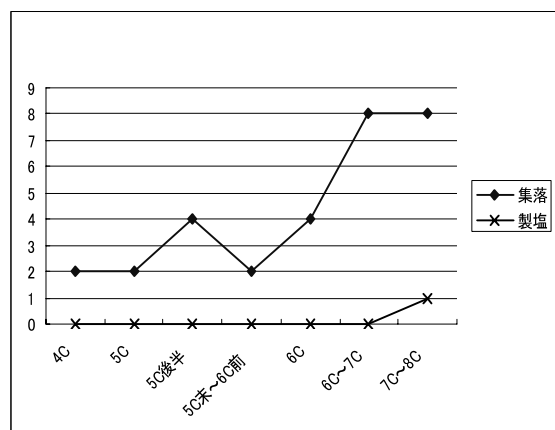


表5 甑 時期別量的変遷図

められ、その製作にあたっては渡来人が関わったと推測する。また、底部に注目すると、中能登町谷内ブンガヤチ遺跡、金沢市神野遺跡、加賀市永町ガマノマガリ遺跡等では多孔が認められるが、他には底部がない形態が多いことが指摘でき、さらに口縁部の形態から各地域に特徴的な様相を捉えることができる。弥生時代からの甕底部を穿孔したもののから把手のついた新しい形態の甕への導入期を4世紀から5世紀の中に認めることができよう。さらに、この甕の製作技法には須恵器製作技法を用いた6世紀後葉～7世紀前半にも認められる。

v) 朝鮮系軟質土器

「軟質土器」<sup>(注23)</sup>、または「朝鮮系軟質土器」<sup>(注24)</sup>で呼称されているが、概念としては後者に相当する。近年、資料が増加しつつあり、再検討を行う必要のあるものも認められる<sup>(注25)</sup>。土器は在地で製作されつつも、技法は朝鮮半島に求めることができるため、直接・間接的に渡来人の移入が考えられる。傾向については、4世紀後半～5世紀前半頃に越前地域でみられ、5世紀後半以降、加賀地域に点在する状況が認められる。7世紀代には特定の地域に集中的に認められるが、短期間である。周辺の須恵器窯や古墳群の造営等の政治的・社会的な動向を考える上で示唆的である。

vi) その他の特殊な遺物

特殊な須恵器としては、特殊器台や角杯形土器等がある。これらは5世紀後半から出現し、微量ながら広範囲に点在する。6世紀代の特殊器台は集落から出土しており、朝鮮半島での伝統的な儀式・儀礼を保持した渡来系集団の存在が想起される。一方、古墳からは百済系の壺や鈴付き高杯等が出土しており、被葬者の系譜を窺う資料が散見される。生産地は各地域にある須恵器窯であり、搬入品は現在認められず、須恵器窯の工人集団の出自や、それらを統括した首長層、消費地である集落の中の構成員との関係性が有機的であることが指摘できる。特筆すべきは、志賀町オハイノヤマA遺跡から出土した土師器の角杯形土器である。能登半島基部の海岸に立地しており、製塩に関係した集団の存在が示唆され、弥生時代後期から古墳時代前期前半頃において渡来人がその地域に移入していたことが窺える。なお、付記ではあるが、7世紀後半～8世紀前には、半瓦当が出土している例が散見される。その周辺には寺院の存在が示唆される。これらは在地で製作されたと考えられ、渡来系専門工人とそれを統括（庇護）する支配者層の存在が想定でき、階層集団の性格も窺える。（松尾）

3. まとめにかえて

上記の検討を基に渡来系遺物群の動態をまとめ、考察を行いたい。性格別に傾向を窺うと、集落からの出土が多く、ついで古墳となる。前者からは初期須恵器、移動式竈、角杯形土器が5世紀後半になると散見される。海辺や山間部に分布することは周辺にある材料を基とする生産に関係していることが推測され、生産基盤・手工業生産を考える上で示唆的である。一方、後者では初期須恵器が5世紀後半（特にTK208段階）から増加する傾向<sup>(注26)</sup>にあるのは、副葬品として須恵器が供献具としての役割を担ったことで理解できる。各地域での葬送儀礼や祭式に変化が生じたと推察されるが、氾的とはいえないことに往時の状況を示していると考えられよう。また、北陸地域における初期須恵器の移入が即渡来人とはいえずとも、各地域における出土状況を考慮すると無関係とはいき切れない。6世紀代になると、須恵器窯が越前、南加賀、能登、越中の各地域で点在して操業されるようになり、供給が始まる。それまでの葬送・祭式に伴う供献具から供膳具としても機能変化の移行が行われるようになり、各地で生活様式の変移が認められる。7世紀では、須恵器技法でもって土師器の食膳具が製作されるようになり、集落でも量が増加し、分布密度も高くなる。

これらの5世紀後半から各段階にわたって渡来系遺物が生産に関わる遺跡から出土している現象

は、断続的に渡来人の工人が須恵器生産等の手工業生産に関与していたと考えられ<sup>(注27)</sup>、生産組織の再編とそれらに影響された生活様式の変化が窺える。

また、初期須恵器と他の遺物群との関係性は注意でき、生活様式の先導役を担っていた可能性を示唆する。初期須恵器の動態と拡散については、断続的かつ継続的に渡来人が移入してきた可能性があり、これらの具体的な検証が課題となる。

以上、渡来系土器群を検討すると、それぞれの時期的変移が重なることが指摘できる。つまり、社会的な変革があったことが認められる。中でも、須恵器の導入と各地域での拡散、土師質土器への須恵器技法導入は、工人や技術の再編（整理・統合）が段階的かつ断続的に行われ、経済的にも政治的介入が強化されたと考えられる。小地域ごとの断続的な渡来系遺物群の移入は政治的支配下における組織の再編・強化を具現化した事象の一側面として考えられよう。

今後の課題としては、詳細な個別実証的な検討を基に集落における構造の変化、鉄器生産・塩生産・玉生産・埴輪生産<sup>(注28)</sup>等の手工業生産の動向等といった社会的特質を個別研究から理解する必要がある。さらに、古墳群の趨勢や九州系・畿内系横穴式石室の段階的な影響<sup>(注29)</sup>・横穴墓の偏在性を包括した巨視的な政治構造も考えていかなければならない。  
(松尾・新村)

おわりに

以上、渡来系遺物群として集成したが、本来ならば、個別に詳細に遺物の特徴を把握し、形式・型式を設定することにより、歴史の縦軸と横軸を明らかにする作業が必要であるが、型式設定や分類を行うには、さらなる資料の増加を待たなければならず、個別実証的な作業までいたらなかった。今後の課題としたい。また、集成したデータの不統一が生じたことや今回、林氏から貴重なデータを提供して頂き、また望月氏から貴重なご教示を頂いたのにもかかわらず、活かしきれなかったのは反省すべきである。今後の自戒としたい。本稿が北陸地域における古墳時代研究の一視点となる契機になれば幸甚である。また、ご批判・ご教示いただければ幸いです。

最後になりましたが、以下の方々にご教授・ご教示頂きました。氏名を記して感謝の意とします。

荒川和哉、大西 顕、立原秀明、津田隆志、林 大智  
久田正弘、松尾洋平、宮川勝次、望月精司、安中哲徳

遺物・遺構	時期	集落	古墳	窯跡	製塩	合計
陶 質 土 器	5 C 後～6 C 初	1	0	0	0	1
	6 C	1	0	0	0	1
	6 C 前～前葉	0	1	0	0	1
初 期 須 恵 器	TK73～TK216	4	0	0	0	4
	TK216	7	5	0	0	12
	TK216～ON46	2	4	0	0	6
	ON46	1	4	0	0	5
	ON46～TK208	2	5	0	0	7
	TK208	11	22	0	0	33
	TK216～TK208	2	1	0	0	3
L字形竈付設建物	6 C 末～7 C 初	1	0	0	0	1
	7 C 前半、中葉	3	0	0	0	3
移 動 式 竈	5 C 後半～6 C 前半	10	0	0	0	10
	6 C	5	0	0	0	5
	6 C 後～7 C 初	5	0	0	0	5
	7 C 前半、中葉	6	0	0	0	6
	7 C～8 C	7	0	0	0	7
甔	4 C	2	0	0	0	2
	5 C	2	0	0	0	2
	5 C 後半	4	0	0	0	4
	5 C 末～6 C 前	2	0	0	0	2
	6 C	4	0	0	0	4
	6 C～7 C	8	0	0	0	8
	7 C～8 C	8	0	0	1	9
朝 鮮 系 軟 質 土 器	4 C 後～5 C 前半	2	0	0	0	2
	5 C	1	0	0	0	1
	5 C 後～6 C 初	1	0	0	0	1
	6 C	2	0	0	0	2
	7 C 前半、中葉	1	0	0	0	1
特 殊 須 恵 器	5 C 後半	1	0	0	0	1
	6 C	2	3	0	0	5
	6 C 末～7 C 前半	2	2	1	0	5
角 杯 形 土 器	3～4 C	1	0	0	0	1
	5 C 後半～6 C 前半	1	0	1	0	2
	6 C～7 C	2	1	0	0	3
瓦（半瓦当）	7 C 後半～8 C	1	0	0	0	1
	8 C 前半	1	0	0	0	1
合 計		114	48	2	1	165

表6 渡来系遺物群 時期／性格出土傾向表(新潟は除く)

【補注】

1. 鈴木靖民編2002『倭国と東アジア』吉川弘文館　その他参考文献を参照。
2. 韓式系土器研究会『韓式系土器研究Ⅰ～Ⅶ』
3. 本稿では、「北陸地域」を便宜的に旧若狭・越前・加賀・能登・越中（糸魚川以西）を - 範囲として設定する。
4. 湊哲夫2003「渡来人と古代国家形成」『渡来人』津山郷土博物館
5. 山田邦和1999「須恵器生産系譜論の現状」『考古学に学ぶ 遺構と遺物』同志社考古学大学シリーズⅦ 森浩一・松藤和人編 同志社大学考古学シリーズ刊行会
6. 田辺昭三1981『須恵器大成』角川書店
7. 福井県1986『福井県史』資料編13 考古
8. 川本紀子2003「越前・若狭における韓半島系土器の一樣相」『北陸古代土器研究』第10号 北陸古代土器研究会
9. 田嶋明人1987「在地窯の成立と土師器～越前、加賀、能登、越中の状況」『第8回三重シンポジウム 東国における古式須恵器をめぐる諸問題』第Ⅲ分冊北武蔵古代文化研究会
10. 吉岡康暢1991『日本海域の土器・陶器（古代編）』六興出版
11. 和歌山県埋蔵文化財研究会1992『古代の甕を考える 第3冊』
12. 樫田誠1999「北陸における古墳時代中・後期の様相 - 南加賀地域における事例を中心として - 」第46回埋蔵文化財研究集会実行委員会『渡来人の受容と展開 - 5世紀における政治的・社会的変化の具体相 - 』
13. 田中昌樹2003「北陸地域の「甕形土製品」について」『富山考古学研究 - 紀要第6号』富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
14. 石川県立埋蔵文化財センター1982『能登海浜道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 志賀町中村畑遺跡・志賀町女郎塚遺跡』
15. 同注6文献
16. 入江文敏1988「角杯形土器小考」『網干善教先生華甲記念考古學論集』網干善教先生華甲記念会
17. 望月精司1999「北陸型煮炊具の出現と成立過程 - 加賀地域及び小松市額町遺跡の事例検討を中心として - 」『北陸の考古学』石川考古学研究会
18. 同注12文献
19. 同注8文献
20. 同注6文献
21. 同注9文献
22. 合田幸美1995「朝鮮半島の甕」『研究紀要』Vol.2（財）大阪文化財センター
23. 植野浩三1987「韓式系土器の名称と分類」『韓式系土器研究』1 韓式系土器研究会
24. 今津啓子1994「渡来人の土器」『ヤマトの王権と交流の諸相』古代王権交流5 荒木敏夫編 名著出版
25. 加賀市弓波遺跡出土例では、所属時期が4世紀代に比定されるが、出土状況から5世紀後半の須恵器杯身が付近で出土しており、時期設定についてはこの時期に相当すると考える。また、金沢市二口六丁遺跡出土例には、朝鮮系軟質土器として認められるものもあり（林大智氏ご教示）今後、検証が必要となる。
26. 同注14文献
27. 同注16文献
28. 三浦俊明2006「北陸における須恵器系埴輪の生産」『考古学ジャーナル』No.541 ニューサイエンス社
29. 伊藤雅文1993「北陸地方」『季刊考古学』第45号 雄山閣  
伊藤雅文2002「北陸の終末期古墳の特質」『シンポジウム 前方後円墳以後の古墳と週末』第10回東北・関東前方後円墳研究会大会実行委員会編集 東北・関東前方後円墳研究会

( 3・4 含む ) 5 世紀後半 ( 3・4 世紀含む )		
番号	遺跡名	遺跡名
1	相神丸山遺跡	35 古府クビ遺跡
2	高田遺跡	36 神野遺跡
3	貝田 C 遺跡	37 相川中 1 号墳
4	草江丸山遺跡	38 寺井山 1 号墳
5	中村田遺跡	39 下開祭遺跡
6	オハイノヤマ A 遺跡	40 和田山古墳群
7	赤通古墳群	41 茶臼山古墳群
8	国分寺井山 4 号墳	42 高宮遺跡
9	矢田遺跡	43 深野遺跡
10	万行赤岩山遺跡	44 千代・能美遺跡
11	小竹カラカ山古墳	45 瀬津金塚遺跡
12	水白モシヨ遺跡	46 大曾次 D 遺跡
13	久江 C 遺跡	47 二子塚古墳群
14	谷内フナガヤチ遺跡	48 坂坂丸山 5 号墳
15	四柳ミツコ遺跡	49 二子塚遺跡
16	倉垣遺跡	50 永町ガミノマカリ遺跡
17	二口かみあれた遺跡	51 永町遺跡
18	竹生野遺跡	52 千歳遺跡
19	正友遺跡	53 千歳 B 遺跡
20	イヨダノヤマ 3 号墳	54 中川 10 号墳
21	柳田遺跡	55 和田防町遺跡
22	城光寺 B 2 号墳	56 上河北遺跡
23	幸山古墳	57 上野生田遺跡
24	神代羽遺跡	58 大田山古墳 6 号方形周溝墓
25	加納崎穴	59 中倉遺跡
26	上野 1 号墳	60 赤野遺跡
27	北反較遺跡	61 新地神社隣地遺跡
28	道林寺 1 遺跡	62 畑中遺跡
29	石塚遺跡	63 村田山 2 号墳
30	流通瀬河坪地 NO.7 遺跡 ( 5-6 号墳 )	64 中遺跡
31	若宮 B 遺跡	65 向出山古墳群
32	畝田寺中遺跡	66 三生野遺跡
33	二口 C 遺跡	67 西塚古墳
34	藤川鉄橋遺跡	68 鳥越山古墳

< 凡例 >  
● 集落・その他  
▲ 古墳  
▲ 窯跡

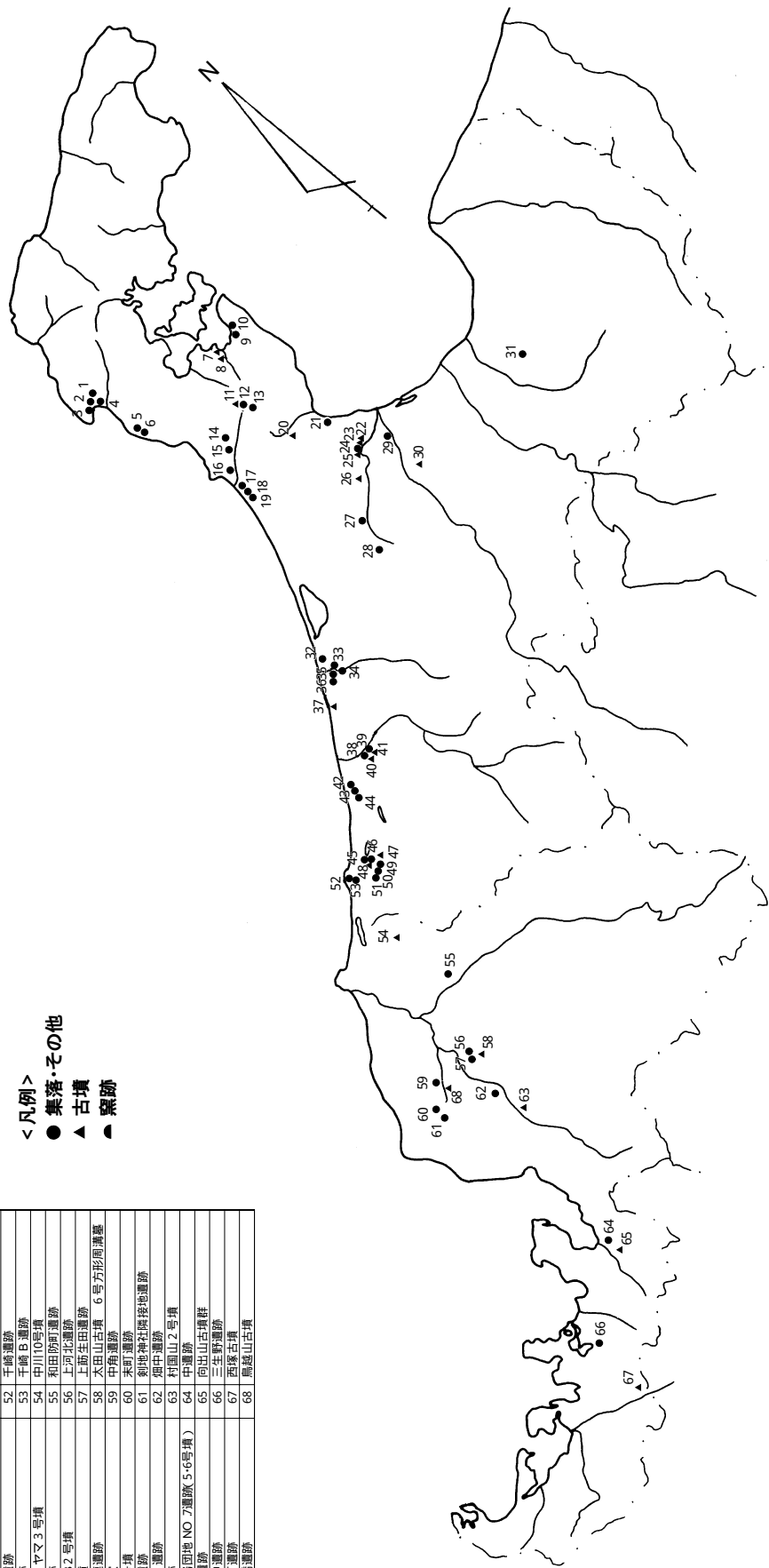


図 1 渡来系遺物群遺跡分布状況 ( 3 ~ 5 世紀 )

番号	遺跡名
1	高田遺跡
2	貝田C遺跡
3	菅沼遺跡
4	白鳥サブラ山1号墳
5	矢田遺跡
6	水白モーション遺跡
7	久江C遺跡
8	中屋新保谷外遺跡
9	上ノ湯白古岡遺跡
10	神代羽遺跡
11	麻生谷新生岡遺跡
12	利田緑外遺跡
13	指江B遺跡
14	飯田寺中遺跡
15	古府クルビ遺跡
16	旭遺跡
17	下開奈遺跡
18	矢田野エシリ古墳
19	林タカヤマ塚跡
20	熊見町西遺跡
21	念仏林前遺跡
22	松山C遺跡
23	弓波遺跡
24	手崎遺跡
25	当山集落跡古墳
26	創地神社隣接地遺跡
27	興道寺塚跡
28	獅子塚古墳
29	吉見浜遺跡
30	浜瀬遺跡
31	二子山3号墳

<凡例>  
● 集落・その他  
▲ 古墳  
▲ 窯跡

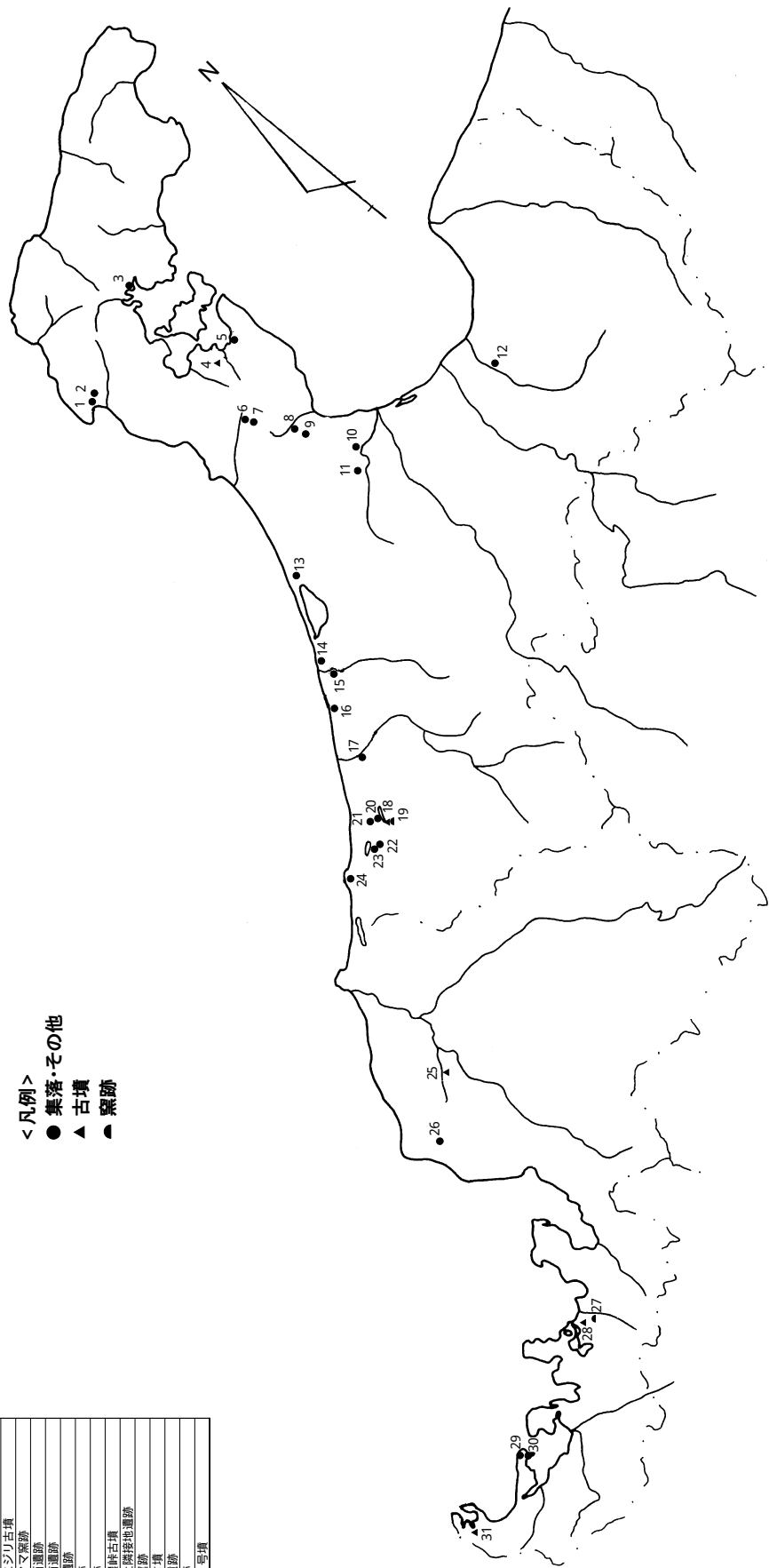


図2 渡来系遺物群遺跡分布状況（6世紀代）

7世紀	遺跡名
1	貝田C遺跡
2	三室淵B遺跡
3	古府タノキダ遺跡
4	膳橋遺跡
5	白馬ナブラ山1号墳
6	黒木梨谷遺跡
7	京ソウタケ遺跡
8	四郎白山下遺跡
9	大田ツツミダ遺跡
10	寺家遺跡
11	柳田シャコラ遺跡
12	武部ショウブダ遺跡
13	高島テラタ遺跡
14	曹弥C遺跡
15	万尾遺跡
16	上久津古屋遺跡
17	麻生谷新生圃遺跡
18	利田橋松遺跡
19	塚崎8号横穴
20	高岡時遺跡
21	田上西遺跡
22	米松ダイカン遺跡
23	米松遺跡
24	北安田北遺跡
25	徳久宮遺跡
26	下柳松遺跡
27	裏跡遺跡
28	前見町西遺跡
29	前見町遺跡
30	矢田野遺跡
31	林タカヤマ遺跡
32	松山C遺跡
33	篠原遺跡
34	敷地天神山遺跡
35	吉見浜遺跡
36	浜瀬遺跡

<凡例>  
● 集落・その他  
▲ 古墳  
▲ 窯跡

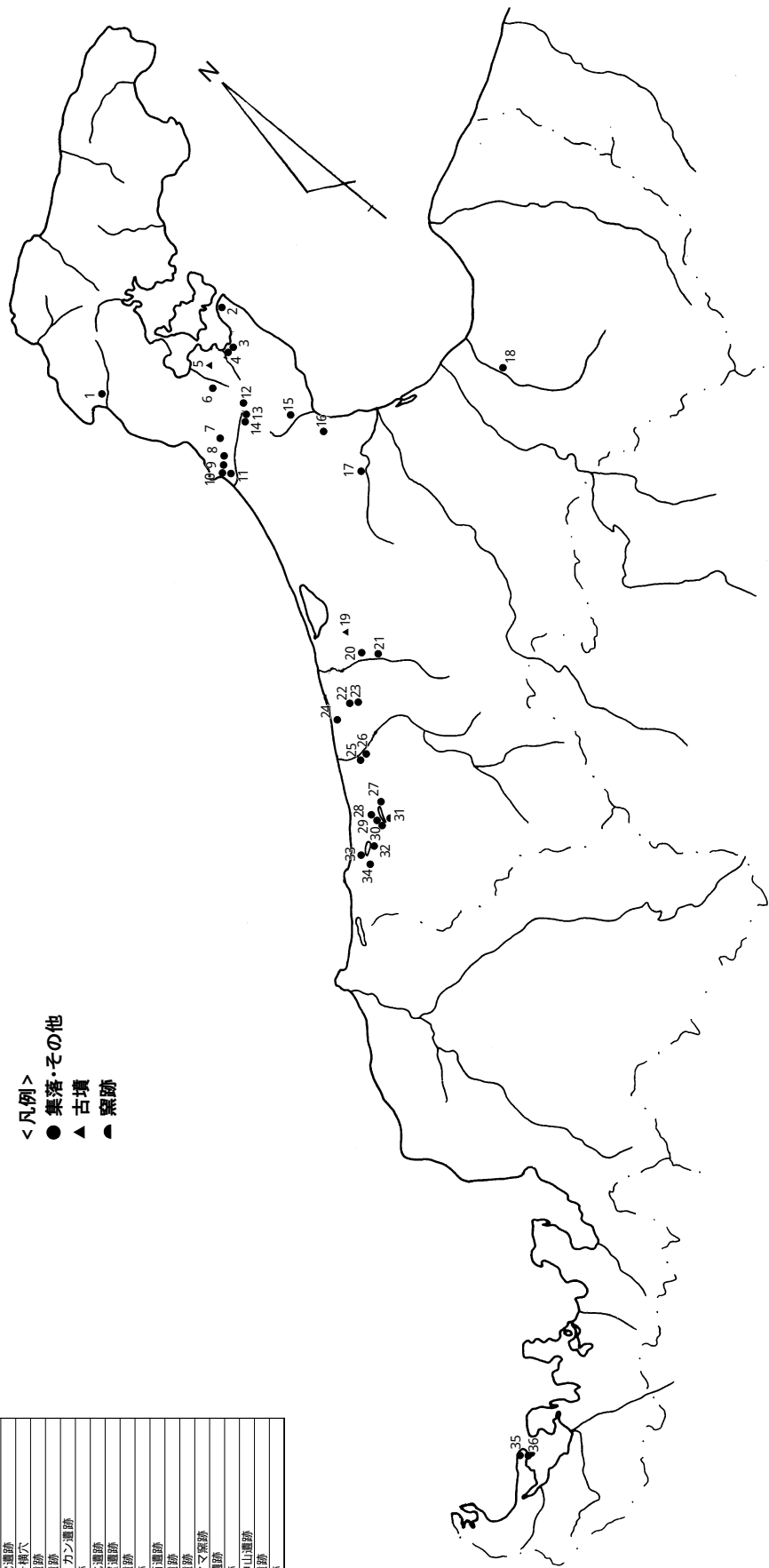


図3 渡来系遺物群遺跡分布状況（7世紀代）

No.	地域	所 在 地		遺跡名	立地	性格	出土層位・遺構	器 種（遺物）	時 期	備 考	文 献
		新市町村名									
1	若狭	大飯郡大島	おおい町	吉見浜遺跡	砂丘	集落	不明	土師器 移動式甕	6C後半～7C初		田中晶樹2003『北陸地域の縄形土製品について』『富山考古学研究紀要』第6号富山県埋蔵文化財調査事務所
2		大飯郡大島	おおい町	浜瀬遺跡	砂丘	集落	不明	土師器 移動式甕	6C後半～7C初		福井県1966『若狭大飯・大飯郡大飯町考古学調査報告』
3		三方郡美浜町郷市	美浜町	獅子塚古墳	沖積平野	古墳	墳丘	須恵器 角杯	6C初～6C代	興道寺窯跡産 ペンガラ使用	福井県1986『福井県史資料編13・考古』 上田三平1922『福井縣史蹟勝地調査報告』
4		三方郡美浜町郷市	美浜町	興道寺窯跡	丘陵	窯跡	窯内	須恵器 角杯（TK15）	6C初～6C代	興道寺窯跡産	美浜町教育委員会1980『興道寺窯跡発掘調査概報』 福井県産業誌編集委員会1983『福井県産業誌』
5		丹生郡織田町	越前町	織田遺跡	沖積地	集落	不明	陶質土器 有蓋高杯	5C代	検証の必要あり	石川県郷土資料館1981『須恵器』
6		丹生郡織田町	越前町	剣神社隣接地遺跡	沖積地	集落	不明	須恵器 杯蓋、高杯	5C後半～6C初		川本紀子2003『越前・若狭における縄半島系土器の一樣相』 『北陸古代土器研究』第10号北陸古代土器研究会
7		坂井郡金津町中川	あわら町	中川10号墳	丘陵	古墳	墳丘（採集）	須恵器 器台（TK208）	5C後半		福井県教育委員会1979『太田山古墳群』 福井県郷土誌懇談会1976『太田山古墳群と糞置庄』
8		速岐郡上中町脇袋	若狭町	西塚古墳	丘陵	古墳	墳丘	須恵器 高杯（TK208）	5C後半		吉岡康博1991『北陸の初期須恵器』 『日本海域の土器』古代・中世編『興出版
9		速岐郡上中町	若狭町	三生野遺跡	沖積地	集落	不明	須恵器 台付長頸壺	5C後半		川本紀子2003『越前・若狭における縄半島系土器の一樣相』 『北陸古代土器研究』第10号北陸古代土器研究会
10		速岐郡高浜町	高浜町	二子山3号墳	丘陵	古墳	不明	須恵器 百済系平底壺	6C初		川本紀子2003『越前・若狭における縄半島系土器の一樣相』 『北陸古代土器研究』第10号北陸古代土器研究会
11		鯖江市	鯖江市	畑中遺跡	沖積地	集落	不明	須恵器 杯蓋、有蓋高杯（TK208）	5C後半		福井県教育委員会1975『太田山古墳群』 福井県郷土誌懇談会1976『太田山古墳群と糞置庄』
12		武生市村国	越前市	村国山2号墳	丘陵	古墳	古墳（採集）	須恵器 壺、甕（TK208）	5C後半		吉岡康博1991『北陸の初期須恵器』 『日本海域の土器』古代・中世編『興出版
13		敦賀市吉河	敦賀市	向出山古墳1号墳	丘陵	古墳	石室	須恵器 高杯、壺、杯蓋 TK216～TK208）	5C後半		吉岡康博1991『北陸の初期須恵器』 『日本海域の土器』古代・中世編『興出版
14		敦賀市吉河	敦賀市	向出山古墳2号墳	丘陵	古墳	墳丘（採集）	須恵器 埴、壺（TK216）	5C後半		吉岡康博1991『北陸の初期須恵器』 『日本海域の土器』古代・中世編『興出版
15		敦賀市中町	敦賀市	中遺跡	扇状地	集落	不明	須恵器 高杯、器台、杯蓋 TK73～TK208）	5C前半～中頃	検証の必要あり	川本紀子2003『越前・若狭における縄半島系土器の一樣相』 『北陸古代土器研究』第10号北陸古代土器研究会 （未報告資料に多数の初期須恵器有り）
16	太田山古墳群 6号方形周溝墓	福井市帆谷他	福井市	福井市	丘陵	古墳	墳丘表土	須恵器 高杯（TK208）	5C後半	陶器産	福井県教育委員会1979『太田山古墳群』 福井県郷土誌懇談会1976『太田山古墳群と糞置庄』
17	末町遺跡	福井市末町	福井市	福井市	沖積地	集落	不明	須恵器 高杯（TK208）	5C後半		福井県郷土誌懇談会1976『太田山古墳群と糞置庄』
18	上筋生田遺跡	福井市上河北町・上筋生田町	福井市	福井市	沖積平野	集落	不明	須恵器 甕、大型甕（TK216～N46）	5C後半		福井市1990『福井市史』資料編『考古』 川本紀子2003『越前・若狭における縄半島系土器の一樣相』 『北陸古代土器研究』第10号北陸古代土器研究会
19	上河北遺跡	福井市上河北町	福井市	福井市	沖積地	不明	不明	須恵器 杯身、甕、杯蓋（TK208）	5C後半		吉岡康博1991『北陸の初期須恵器』 『日本海域の土器』古代・中世編『興出版
20	和田防町遺跡	福井市和田中町	福井市	福井市	沖積平野	集落	不明	朝鮮系軟質土器 甕	5C前半		福井市1990『和田防町遺跡』『福井市史』資料編『考古』 川本紀子2003『越前・若狭における縄半島系土器の一樣相』 『北陸古代土器研究』第10号北陸古代土器研究会
21	当山美濃峠古墳	丹生郡清水町	福井市	福井市	丘陵	古墳	不明	陶質土器 高杯	6C前半	検証の必要あり	川本紀子2003『越前・若狭における縄半島系土器の一樣相』 『北陸古代土器研究』第10号北陸古代土器研究会
22	中角遺跡	福井市中角町	福井市	福井市	沖積地	集落	不明	朝鮮系軟質土器 甕	4C後半～5C後半	口縁は布留系 胴部に格子叩きあり	川本紀子『越前・若狭における縄半島系土器の一樣相』 『北陸古代土器研究』第10号2003北陸古代土器研究会
23	鳥越山古墳	松岡町	永平寺町	永平寺町	丘陵	古墳	不明	須恵器 甕、有蓋高杯、甕、器台、杯蓋（ON46）	5C後半	副葬品に馬具あり	松岡町教育委員会・永平寺町教育委員会2005 『石舟山古墳・鳥越山古墳・二本松山古墳』
24	加賀	宇ノ氣町	かほく市	指江B遺跡	丘陵裾	集落	河道	須恵器 特殊器台 土師器 移動式甕、甕、特殊器台 朝鮮系軟質土器 把手	5C後半～6C代	在地産 切り込みあり	石川県教育委員会（財）石川県埋蔵文化財センター2002 『宇ノ氣町指江遺跡・指江B遺跡』

表 7 渡来系遺物一覧表

No.	地域	遺跡名	所 在 地	立 地	性 格	出土層位・遺構	器 種（遺物）	時 期	備 考	文 献
			新市町村名							
25	加賀	大根布砂丘遺跡	内灘町大根布町	砂丘	集落	不明	土師器 把手付碗	5～6C代		内灘町1982 <sup>ア</sup> 内灘町史 <sup>ア</sup>
26		畝田・寺中遺跡	金沢市畝田西	沖積平野	集落	溝	須恵器 無蓋高杯、甌、杯蓋(TK208)など 土師器 移動式甕、甌	5C後半～6C初	鉄滓あり	金沢市2004 <sup>ア</sup> 金沢市史 <sup>ア</sup> 、資料編9考古
27		古府クルビ遺跡	金沢市古府町	沖積平野	集落	溝、竪穴建物	須恵器 杯蓋(TK216)	5C後半～6C初		石川県教育委員会1972 <sup>ア</sup> 金沢市古府クルビ遺跡 第1・2次 <sup>ア</sup>
28		犀川鉄橋遺跡	金沢市大豆田本町・本江町	洪積台地	集落	不明	須恵器 杯身、高杯、杯蓋(TK216～ON46) 土師器 甌	5C中・後半・7C代		(財)石川県埋蔵文化財センター1982 <sup>ア</sup> 犀川鉄橋遺跡 <sup>ア</sup>
29		神野遺跡	金沢市神野町	沖積平野	集落	溝	土師器 甌	5C代	底面は多孔	金沢市教育委員会・金沢市埋蔵文化財センター2001 <sup>ア</sup> 金沢市神野遺跡 <sup>ア</sup> II
30		田上西遺跡	金沢市田上町	沖積平野	集落	竪穴建物	土師器 甌	7C代	把手に切り込み有り	金沢市教育委員会・金沢市埋蔵文化財センター2000 <sup>ア</sup> 金沢市田上西遺跡・田上遺跡群I・ <sup>ア</sup>
31		二口六丁遺跡	金沢市二口町	沖積地	集落	不明	朝鮮系軟質土器 甌	5C代	口縁部は受口 頸部は格子叩き	金沢市教育委員会・金沢市埋蔵文化財調査委員会・金沢市建設部駅西開発課1983 <sup>ア</sup> 金沢市二口六丁遺跡 <sup>ア</sup>
32		塚崎8号横穴	金沢市塚崎町	沖積平野	横穴墓	横穴墓	須恵器 平底短頸甕	7C前半		金沢市1995 <sup>ア</sup> 金沢市史 <sup>ア</sup> 、資料編19考古
33		高岡町遺跡	金沢市高岡町	台地	集落	包含層	半瓦当	7C後半	非在地産?検証 の必要あり	(財)金沢市埋蔵文化財センター2003 <sup>ア</sup> 高岡町遺跡 <sup>ア</sup> II金沢市
34		相川中1号墳	松任市北相川	沖積地	古墳	墳丘	須恵器 杯身、杯蓋、甌(TK216)	5C後半	古墳は現在消滅	松任市教育委員会1967 <sup>ア</sup> 加賀三浦遺跡の調査 <sup>ア</sup>
35		北安田北遺跡	松任市北安田町	沖積地	集落	包含層 溝、竪穴建物	土師器 移動式甕、甌	7C中頃～8C中頃	鉄滓あり	松任市教育委員会1992 <sup>ア</sup> 北安田北遺跡 <sup>ア</sup> IV
36		旭遺跡	松任市一塚町	沖積地	集落	竪穴建物	土師器 把手付碗	6C代		松任市教育委員会1995 <sup>ア</sup> 旭遺跡群 <sup>ア</sup> II
37		末松A遺跡	野々市町末松・中林	扇状地	集落	包含層	土師器 移動式甕	7C代	竈の羽口あり	石川県教育委員会(財)石川県埋蔵文化財センター2005 <sup>ア</sup> 野々市町末松遺跡 <sup>ア</sup>
38		末松ダイカン遺跡	野々市町末松	扇状地	集落	竪穴建物	土師器 移動式甕	7C末～8C初		石川県教育委員会(財)石川県埋蔵文化財センター2000 <sup>ア</sup> 末松ダイカン遺跡 <sup>ア</sup> 野々市町末松遺跡群 <sup>ア</sup>
39		下開発遺跡	辰口町下開発	扇状地	集落	包含層	土師器 移動式甕、甌	5C末～6C前半・7C前半	甕は未報告	(財)石川県埋蔵文化財センター1988 <sup>ア</sup> 辰口西部遺跡群 <sup>ア</sup> I
40		徳久荒屋遺跡	辰口町下開発	扇状地	集落	包含層 柱穴	土師器 甌	7C前半		(財)石川県埋蔵文化財センター1988 <sup>ア</sup> 辰口西部遺跡群 <sup>ア</sup> I
41		茶白山1号墳	辰口町下開発	丘陵	古墳	墳丘	須恵器 台脚付短頸甕(TK216～ON46)	5C後半		辰口町教育委員会1982 <sup>ア</sup> 辰口町下開発茶白山古墳群 <sup>ア</sup> I 辰口町教育委員会2004 <sup>ア</sup> 辰口町下開発茶白山古墳群 <sup>ア</sup> II
42		茶白山3号墳	辰口町下開発	丘陵	古墳	周溝	須恵器 甌、甌、大型甌(TK208)	5C後半		辰口町教育委員会1982 <sup>ア</sup> 辰口町下開発茶白山古墳群 <sup>ア</sup> I 辰口町教育委員会2004 <sup>ア</sup> 辰口町下開発茶白山古墳群 <sup>ア</sup> II
43		茶白山6号墳	辰口町下開発	丘陵	古墳	墳丘 周溝	須恵器 有蓋高杯(TK208)	5C後半		辰口町教育委員会1982 <sup>ア</sup> 辰口町下開発茶白山古墳群 <sup>ア</sup> I 辰口町教育委員会2004 <sup>ア</sup> 辰口町下開発茶白山古墳群 <sup>ア</sup> II
44		茶白山12号墳	辰口町下開発	丘陵	古墳	墳丘	須恵器 甌、甌、杯蓋(TK208～TK23) 土師器 把手付碗	5C後半		辰口町教育委員会1982 <sup>ア</sup> 辰口町下開発茶白山古墳群 <sup>ア</sup> I 辰口町教育委員会2004 <sup>ア</sup> 辰口町下開発茶白山古墳群 <sup>ア</sup> II
45		和田山4号墳	寺井町和田	丘陵	古墳	周溝	須恵器 甌、有蓋高杯、杯蓋(TK208)	5C後半		石川県寺井町・寺井町教育委員会1997 <sup>ア</sup> 加賀能美古墳群 <sup>ア</sup>
46		和田山5号墳	寺井町和田	丘陵	古墳	墳丘	須恵器 甕(TK216～ON46)	5C後半		石川県寺井町・寺井町教育委員会1997 <sup>ア</sup> 加賀能美古墳群 <sup>ア</sup>
47		和田山22号墳	寺井町和田	丘陵	古墳	周溝	須恵器 甕(TK216～ON46)	5C後半		石川県寺井町・寺井町教育委員会1997 <sup>ア</sup> 加賀能美古墳群 <sup>ア</sup>
48		寺井山1号墳	寺井町寺井	丘陵	古墳	墳丘(採集)	須恵器 甕、甌(TK208)	5C後半		石川県寺井町・寺井町教育委員会1997 <sup>ア</sup> 加賀能美古墳群 <sup>ア</sup>
49		額見町遺跡	小松市額見町	台地	集落	包含層、竪穴建物 *L字形甕	土師器 甕移動式甕、甌、 朝鮮系軟質土器 甌	7C前半～中頃	鉄滓あり 竪穴建物23棟	小松市教育委員会1998 <sup>ア</sup> 額見町遺跡(額見町遺跡A地区) <sup>ア</sup>
50		額見町西遺跡	小松市額見町	台地	集落	竪穴建物 *L字形甕	土師器 甌	6C末～7C初	竪穴建物3棟	(財)石川県埋蔵文化財センター2002 <sup>ア</sup> 額見町西遺跡 <sup>ア</sup>

表 8 渡来系遺物一覧表

No.	地域	遺跡名	所在地	立地	性格	出土層位・遺構	器 種 (遺物)		時 期	備 考	文 献
							須恵器	有蓋高杯、環土師器 甕、甌			
51	加賀	矢 田 野 遺 跡	小松市月津町	台地	集落	竪穴建物 * L 字形竪	須恵器	有蓋高杯、環土師器 甕、甌	7C 前半	竪穴建物2棟	荒木麻理子2005『矢田野遺跡』石川県埋蔵文化財情報 第13号 (財) 石川県埋蔵文化財センター
52		矢田野エジリ古墳	小松市月津町	台地	古墳	周溝	須恵器	鈴台付高杯	6C 前半	円筒土甕 (竪立技法) 人物土師器、高形埴輪等	小松市教育委員会1992『矢田野エジリ古墳』
53		念 仏 林 南 遺 跡	小松市月津町	台地	集落	竪穴建物	土師器	甌	6C 代	鉄滓あり	小松市教育委員会1999『念仏林南遺跡Ⅱ』
54		栗 師 遺 跡	小松市矢崎町	台地	集落	竪穴建物 * L 字形竪	土師器	移動式甕	7C 中頃		小松市教育委員会2003『栗師遺跡』
55		島 遺 跡	小松市島町	台地	集落	竪穴建物	土師器	移動式甕	5C 後半～6C 代	鉄滓あり	小松市教育委員会1998『島遺跡』
56		高 堂 遺 跡	小松市高堂	沖積平野	集落	包含層	須恵器	杯蓋 TK216)	5C 後半		石川県立埋蔵文化財センター1981『高堂遺跡』
57		漆 町 遺 跡	小松市漆町・金屋町 白江町・若杉町	沖積地	集落	溝	須恵器	直口壺、甌 TK216)	5C 後半	鉄滓あり	(財) 石川県埋蔵文化財センター1989『漆町遺跡Ⅳ』
58		千代・能美遺跡	小松市能美町	沖積平野	集落	河連	土師器	甌	4～5C 代	山陰系	林大智2002『千代・能美遺跡』石川県埋蔵文化財情報 第7号 (財) 石川県埋蔵文化財センター
59		林タカヤマ窯跡	小松市林	丘陵	窯跡	窯内	須恵器	平底短頸甕 百濟系? \ 有蓋三足壺	6C 末～7C 初	甌は把手に切り込みあり	小松市教育委員会1999『林タカヤマ窯跡』
60		千 崎 遺 跡	加賀市美町千崎	洪積台地	集落	竪穴建物	須恵器	杯身 TK216)	5C 後半～6C 初		石川県教育委員会1972『加賀市千崎・大島遺跡』
61		美岬・千崎B遺跡	加賀市美町千崎	洪積台地	集落	柱穴 土坑	土師器	甌	5C 後半		(財) 石川県埋蔵文化財センター1998『美岬・千崎遺跡』
62		弓 波 遺 跡	加賀市弓波町・七日市町・八日市町	沖積平野	集落	川跡	土師器	移動式甕、甌	6C 代	軟質土器の器体部に格子目タタキあり	石川県教育委員会 (財) 石川県埋蔵文化財センター2003『弓波遺跡』
63		松 山 C 遺 跡	加賀市松山町	沖積平野	集落	柱穴 溝	土師器	移動式甕、甌	6C～7C 代	精羽口、鉄滓 鉄製品あり	(財) 石川県埋蔵文化財センター2001『加賀市松山C遺跡』
64		敷地天神山遺跡	加賀市敷地寺岡町	洪積台地	集落	竪穴建物	須恵器	角杯	7C 初	角杯は在地産	石川県立埋蔵文化財センター1987『敷地天神山遺跡群』 石川県立埋蔵文化財センター1982『能登海浜道閑係埋蔵文化財調査報告Ⅰ (志賀町中村知遺跡・志賀町文郎塚遺跡)』
65		篠 原 遺 跡	加賀市篠原町	洪積台地	集落	包含層 土坑	土師器	甌	7C 代		石川県立埋蔵文化財センター1987『篠原遺跡』
66		湘 津 金 場 遺 跡	加賀市湘津町	平野	集落	竪穴建物 土坑	土師器	甌	5C 後半		(財) 石川県埋蔵文化財センター1997『湘津遺跡群』
67		永 町 遺 跡	加賀市大聖寺永町	沖積地	集落	土坑	須恵器	杯蓋 TK216)	5C 後半		吉岡康博1991『北陸の初期須恵器』 『日本海地域の土器』古代・中世編 六興出版
68		永町ガマノマガリ遺跡	加賀市大聖寺永町	沖積地	集落	土坑	須恵器	甌、杯蓋 ON46～TK208)	5C 後半		石川県立埋蔵文化財センター1987『永町ガマノマガリ遺跡』
69		二 子 塚 遺 跡	加賀市二子塚	沖積地	集落	竪穴建物	須恵器	甌 (ON46)	5C 後半		石川県教育委員会1974『加賀市二子塚遺跡群調査概報』
70		二 子 塚 10 号 墳	加賀市二子塚	沖積地	古墳	周溝	須恵器	甌 (ON46)	5C 後半		石川県教育委員会1974『加賀市二子塚遺跡群調査概報』
71		二 子 塚 16 号 墳	加賀市二子塚	沖積地	古墳	周溝	須恵器	甌 (ON46～TK208)	5C 後半		石川県教育委員会1974『加賀市二子塚遺跡群調査概報』
72		二 子 塚 19 号 墳	加賀市二子塚	沖積地	古墳	周溝	須恵器	杯身、器台、甌 (ON46)	5C 後半		石川県教育委員会1974『加賀市二子塚遺跡群調査概報』
73		二 子 塚 20 号 墳	加賀市二子塚	沖積地	古墳	周溝	須恵器	甌 (ON46～TK208)	5C 後半		石川県教育委員会1974『加賀市二子塚遺跡群調査概報』
74		二 子 塚 21 号 墳	加賀市二子塚	沖積地	古墳	周溝	須恵器	短頸甌 (ON46～TK208)	5C 後半		石川県教育委員会1974『加賀市二子塚遺跡群調査概報』
75		二 子 塚 23 号 墳	加賀市二子塚	沖積地	古墳	周溝	須恵器	甌、甌 TK208)	5C 後半		石川県教育委員会1974『加賀市二子塚遺跡群調査概報』

表 9 渡来系遺物一覧表

No.	地域	遺跡名	所 在 地	立 地	性 格	出土層位・遺構	器 種（遺物）	時 期	備 考	文 献
			新市町村名							
76	加賀	二子塚 29 号 墳	加賀市二子塚	沖積地	古墳	周溝	須恵器 甕 ON46)	5C 後半		石川県教育委員会1974 <sup>※</sup> 加賀市二子塚遺跡群調査概報。
77		二子塚 33 号 墳	加賀市二子塚	沖積地	古墳	周溝	須恵器 杯皿 ON46～TK208)	5C 後半		石川県教育委員会1974 <sup>※</sup> 加賀市二子塚遺跡群調査概報。
78		二子塚 36 号 墳	加賀市二子塚	沖積地	古墳	周溝	須恵器 甕、甕 TK208)	5C 後半		石川県教育委員会1974 <sup>※</sup> 加賀市二子塚遺跡群調査概報。
79		吸坂丸山 5 号 墳	加賀市吸坂町丸山	丘陵裾	古墳	周溝	須恵器 甕、甕 TK208頃)	5C 後半	金製細環 人物埴輪、鳥形土製品	加賀市教育委員会1990 <sup>※</sup> 吸坂丸山古墳群。
80		大管波 D 遺跡	加賀市大管波	沖積平野	集落	溝	須恵器 杯身、甕、甕 TK216)	5C 後半	甕は把手に切り込み有り	加賀市教育委員会1991 <sup>※</sup> 大管波 D 略報。
81	能登	武部シヨウブダ遺跡	鹿島郡鹿島町武部	扇状地	集落	包含層	土師器 甕	6C～7C 代	轉羽口、鉄滓あり	石川県教育委員会(財)石川県埋蔵文化財センター2002 <sup>※</sup> 武部シヨウブダ遺跡。
82		小竹ガラボ山古墳	鹿島郡鹿島町小竹	低丘陵裾部	古墳	墳丘	須恵器 器台、甕 TK208)	5C 後半		鹿島町教育委員会1985 <sup>※</sup> 小竹ガラボ山古墳・小竹平遺跡。
83		水白モンシヨ遺跡	鹿島郡鹿島町水白	扇状地	集落	包含層	土師器 移動式甕	5C 後半～6C 前半		石川県立埋蔵文化財センター1985 <sup>※</sup> 水白モンシヨ遺跡。
84		久江 C 遺跡	鹿島郡鹿島町久江	山地斜面	散布地	包含層	土師器 移動式甕	5C～6C 代		(財)石川県埋蔵文化財センター2000 <sup>※</sup> 久江 C 遺跡 <sup>1)</sup> 鹿島町久江遺跡群。
85		曾祢 C 遺跡	鹿島郡鹿島町曾祢	扇状地	集落	包含層 河道	土師器 移動式甕	7C 代		(社)石川県埋蔵文化財保存協会1995 <sup>※</sup> 曾祢 C 遺跡。
86		高島テラダ遺跡	鹿島郡鹿島町高島	平地	集落	不明	土師器 移動式甕	7C 代		(社)石川県埋蔵文化財保存協会1994 <sup>※</sup> 藤井サンジョリ遺跡・高島テラダ遺跡・高島カンジダ遺跡。
87		芦川八幡遺跡	鹿島郡鹿島町芦川	沖積地	集落	不明	須恵器 大型甕 TK208)	5C 後半		鹿島町1965 <sup>※</sup> 鹿島町史。
88		大槻バス停遺跡	鹿島郡鳥屋町大槻	沖積地	集落	採集	土師器 移動式甕	5C～7C 代		埋蔵文化財研究会1992 <sup>※</sup> 第32回 埋蔵文化財研究集会 古墳時代の甕を考える。第2分冊
89		春木森谷遺跡	鹿島郡鳥屋町	丘陵裾	集落	包含層 土坑	土師器 甕	7C 後半	把手に切り込み有り	鳥屋町教育委員会1995 <sup>※</sup> 春木森谷遺跡・春木森谷遺跡。
90		沢ソウダケ遺跡	鹿島郡鹿西町金丸	扇状地	集落	不明	土師器 甕	7C～8C 代		鹿西町教育委員会2003 <sup>※</sup> 沢ソウダケ遺跡・宮地遺跡。
91		合内ブンガヤチ遺跡	鹿島郡鹿西町金丸合内・杉谷	丘陵裾	集落	包含層	土師器 甕	4～5C 代	底面は、多孔	(財)石川県立埋蔵文化財センター1995 <sup>※</sup> 合内・杉谷遺跡群。
92		寺家遺跡	羽咋市寺家町・柳田町	砂丘	集落	包含層 溝、竪穴建物	須恵器 移動式甕 TK47) 土師器 甕	7C～8C 代	移転は遺址確認の必要あり 鉄製品、銅の須口あり	(財)石川県立埋蔵文化財センター1997 <sup>※</sup> 寺家遺跡。 (財)石川県立埋蔵文化財センター1988 <sup>※</sup> 寺家遺跡発掘調査報告書。II
93		柳田シヤコチ遺跡	羽咋市柳田町	台地	集落	竪穴建物	土師器 甕	7C 初	把手に切り込み有り	(財)石川県立埋蔵文化財センター1984 <sup>※</sup> 柳田シヤコチ遺跡。
94		四柳白山下遺跡	羽咋市四柳町	扇状地	集落	包含層	土師器 甕	7C 初	鉄滓、糊の須口あり	石川県教育委員会(財)石川県埋蔵文化財センター2005 <sup>※</sup> 四柳白山下遺跡。I
95		四柳ミッコ遺跡	羽咋市四柳町	扇状地	集落	竪穴建物	須恵器 無蓋高杯、甕 TK73～TK208) 甕(杯皿 ON46)	5C 中頃	轉羽口(専用・転用) 鉄滓、白玉	林大智1999 <sup>※</sup> 四柳ミッコ遺跡(第2次調査) <sup>1)</sup> 石川県埋蔵文化財情報。第2号 (財)石川県埋蔵文化財センター
96		太田ツツミミダ遺跡	羽咋市太田町	沖積地	集落	不明	土師器 甕	7C～8C 代		羽咋市教育委員会1995 <sup>※</sup> 太田ツツミミダ遺跡。
97		長者川遺跡	羽咋市兵庫町松ヶ下・御坊山	沖積低地	集落	包含層	土師器 移動式甕	6C～7C 代	鉄滓あり	羽咋市教育委員会1997 <sup>※</sup> 長者川遺跡。I 羽咋市教育委員会2005 <sup>※</sup> 長者川遺跡。II
98		正友遺跡	押水町正友	丘陵	集落	不明	須恵器 把手付板(ON46)	5C 後半		石川県郷土資料館1981 <sup>※</sup> 須恵器。
99		竹生野遺跡	押水町竹生野	丘陵	集落	包含層	須恵器 杯蓋、把手付板 TK216) 杯皿 TK208)	5C 後半	鉄製品あり 甕底面は多孔	石川県立埋蔵文化財センター1980 <sup>※</sup> 竹生野遺跡。
100		二口かみあれた遺跡	志雄町二口	沖積地	集落	包含層 溝	土師器 甕	4 C 代		志雄町教育委員会1995 <sup>※</sup> 二口かみあれた遺跡。I 志雄町教育委員会1999 <sup>※</sup> 二口かみあれた遺跡。Ⅱ(第2次) II
101	越中	関ヶ丘中遺跡	富山市関ヶ丘	丘陵	集落	不明	土師器 移動式甕	不明	甕は未報告	富山市教育委員会2003 <sup>※</sup> 富山市関ヶ丘中遺跡・関ヶ丘瓜合川遺跡発掘調査報告書。
102		伝福屋古墳	富山市福屋	沖積地	古墳	不明	陶質土器 台付壺	5C～6C 代		石川県郷土資料館1981 <sup>※</sup> 須恵器。

表10 渡来系遺物一覧表

No.	地域	遺跡名	所 在 地	立 地	性 格	出土層位・遺構	器 種（遺物）	時 期	備 考	文 献
			新市町村名							
103	越中	若 宮 B 遺 跡	富山市立山町若宮	扇状地	集落	包含層 竪穴建物	須恵器 杯蓋、杯身、甕（TK208）	5 C 後半		富山県教育委員会1982『北陸自動車道遺跡調査報告』(立山町 土器・石器編)
104		流通業務団地 NO.7遺跡(5号墳)	射水市 射水郡大門水戸田 小杉町青井谷	丘陵	古墳	墳丘	須恵器 甕（TK216）	5 C 後半		富山市教育委員会1982『小杉流通業務団地内遺跡群第3・4次概要』
105		流通業務団地 NO.7遺跡(6号墳)	射水市 射水郡大門水戸田 小杉町青井谷	丘陵	古墳	周溝	須恵器 有蓋高杯（TK216）	5 C 後半		富山市教育委員会1982『小杉流通業務団地内遺跡群第3・4次概要』
106		道 林 寺 I 遺 跡	小矢部市道林寺	沖積地	集落	竪穴建物	須恵器 杯身（TK73） 杯身、甕、杯蓋（TK216）	5 C 後半		富山市教育委員会1978『日宮遺跡発掘調査報告書』
107		中尾新保谷内遺跡	氷見市大野・中尾	沖積平野	集落	包含層	土師器 移動式甕	6 C 代		富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2004『埋蔵文化財調査概要 - 平成15年度 - 』 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2005『埋蔵文化財調査概要 - 平成16年度 - 』
108		中 谷 内 遺 跡	氷見市中谷内	沖積平野	集落	包含層	土師器 移動式甕	5 C ~ 6 C 代	轄の羽口あり 鳥形土製品あり	富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2004『埋蔵文化財調査概要 - 平成15年度 - 』 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2005『埋蔵文化財調査概要 - 平成16年度 - 』
109		上久津呂中屋遺跡	氷見市上久津呂	沖積平野	集落	包含層	須恵器 角杯	6 C ~ 7 C 代	在地産 海綿時計を多く含む	富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2004『埋蔵文化財調査概要 - 平成15年度 - 』 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2005『埋蔵文化財調査概要 - 平成16年度 - 』
110		イヨダノヤマ3号墳	氷見市上田	丘陵	古墳	墳丘	須恵器 杯蓋、甕、甕、杯身（TK208）	5 C 後半		大野敦1998『イヨダノヤマ3号墳』氷見市立博物館年報16号。 氷見市2002『氷見市史』資料第5号
111		神 代 羽 遺 遺 跡	氷見市神代	沖積地	集落	不明	土師器 移動式甕、甕	5 C 末 ~ 6 C 前半		氷見市2002『氷見市史』資料第5号
112		柳 田 遺 跡	氷見市柳田	砂洲	集落	不明	土師器 移動式甕、甕	5 C 末		氷見市2002『氷見市史』資料第5号
113		麻生谷新生園遺跡	高岡市麻生谷	沖積平野	集落	竪穴建物 溝	土師器 移動式甕	6 C 末 ~ 7 C 初	溝の羽口、ミニチュア 土器あり	高岡市教育委員会1997『麻生谷遺跡・麻生谷新生園遺跡調査報告』
114		城 光 寺 B 2 号 墳	高岡市城光寺	丘陵	古墳	墳丘 周溝	須恵器 甕（ON46 ~ TK208）	5 C 後半		高岡市教育委員会1958『高岡市埋蔵文化財概報』
115		寺 山 古 墳	高岡市城光寺	丘陵	古墳	墳丘（採集）	須恵器 杯身、高杯、杯蓋（TK208）	5 C 後半		高岡市教育委員会1958『高岡市埋蔵文化財概報』
116		加 納 横 穴	西砺波郡福岡町加納	丘陵	横穴墓	墳丘	須恵器 杯身、杯蓋、台付長頸甕、 高杯、提瓶	6 C 後半 ~ 7 C 代		富山県1972『富山県史』考古編
117		上 野 1 号 墳	西砺波郡福岡町上野	丘陵	古墳	墳丘（採集）	須恵器 大型甕（TK216）	5 C 後半		富山県1972『富山県史』考古編
118		利 田 横 枕 遺 跡	立山市利田横枕	沖積平野	集落	包含層	土師器 移動式甕、把手付碗	6 C 後半 ~ 7 C 初		富山県1972『富山県史』考古編 立山町教育委員会2001『利田横枕遺跡』
119	越後	蟻 子 山 古 墳 群	南魚沼郡六日町余川	丘陵	古墳	不明	須恵器 大型甕（TK208）	5 C 後半		金子拓男1977『伊予郡の古墳』『南魚沼』
120		飯 綱 山 古 墳 群	南魚沼郡六日町余川	丘陵	古墳	不明	須恵器 甕（TK208）	5 C 後半		金子拓男1977『伊予郡の古墳』『南魚沼』
121		余 川 中 道 遺 跡	南魚沼郡六日町余川	沖積地	集落	竪穴建物 土坑	須恵器 杯蓋・杯身、甕、甕、高杯、 甕、甕（TK216 - TK208）	5 C 後半	集落内祭祀場あり	新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団2005 『余川中道遺跡』 <sup>1</sup>
122		下 山 1 号 墳	南魚沼郡大和町蒲佐	丘陵	古墳	石室内	須恵器 大型甕（TK208）	5 C 後半		中川成夫1963『新潟県魚野川流域古墳群の調査』立教大学
123		下 山 3 号 墳	南魚沼郡大和町蒲佐	丘陵	古墳	石室内	須恵器 甕（TK208）	5 C 後半		中川成夫1963『新潟県魚野川流域古墳群の調査』立教大学
124		田 伏 遺 跡	糸魚川市田伏	沖積地	集落	包含層	須恵器 杯身（TK216）	5 C 後半		糸魚川市教育委員会1972『田伏玉作遺跡』

表11 渡来系遺物一覧表

#### 参考文献

- 中司照世1977「加賀における古墳時代の展開」『古代文化』224号(29 9)(財)古代学協会
- 西谷正1979「日本における韓式土器・陶器」『世界陶磁全集』17韓国古代 小学館
- 帝塚山考古学研究所1982帝塚山考古学研究所設立記念『日・韓古代文化の流れ』
- 段熙麟1986『渡来人の遺跡を歩く(山陰・北陸編)』六興出版
- 今津啓子1987「大阪湾岸地域出土の朝鮮系軟質土器」『東アジアの考古と歴史』下 岡崎敬先生退官記念事業会 同朋舎
- 江浦洋1988「日本出土の統一新羅系土器とその背景」『考古学雑誌』第74号第2号 日本考古学会
- 田嶋明人・小島芳孝1989「加賀・能登における古代手工業生産の様相」『北陸の古代主工業生産』北陸古代手工業生産史研究会 真陽社
- 北野博司・池野正男1989「北陸における須恵器生産」『北陸の古代主工業生産』北陸古代手工業生産史研究会 真陽社
- 石川県考古学研究会編1998石川県考古資料調査・集成事業報告書『祭祀具』
- 都出比呂志1991「日本古代の国家形成論序説 前方後円墳体制の提唱」『日本史研究』343日本史研究会
- 木下亘1991「陶質土器とその分布」『古墳時代の研究』第6巻石野・岩崎他編 雄山閣
- 亀田修一1993「考古学から見た渡来人」『古代文化談叢』第30集 九州古文化研究会
- 堀田啓一1993「渡来人 大和国を中心に」『古墳時代の研究』第13巻 石野博信・岩崎卓也他編 雄山閣
- 荒木敏夫編1994『ヤマト王権と交流の諸相』名著出版
- 富山県埋蔵文化財センター1994『古代の須恵器 新技術の伝来』
- 松原弘宣編1995『瀬戸内海地域における交流の展開』名著出版
- 石川県立歴史博物館1996『波瀾をこえて 古代・中世の東アジア交流』
- 宮島了誠編1997『季刊考古学 渡来系氏族の古墳と寺院』第60号 雄山閣
- 林大智1999「石川県における農具の鉄器化と手工業生産の導入について」『石川県考古資料調査・集成事業報告書 農具』石川考古学研究会
- 石川県立歴史博物館2000『飛鳥の王権と加賀の渡来人』日韓国際シンポジウム報告書
- 望月精司2000「小松市額見町遺跡の調査」『日本歴史』2月号 吉川弘文館
- まつおか越の国伝説実行委員会2001『古墳時代の伽耶と倭 継体大王時代の日韓交流』
- 亀田修一2001「出雲・石見・隠岐の朝鮮系土器 古墳時代資料を中心に」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ 蟹沢遺跡・上沢Ⅲ遺跡・古志本郷遺跡Ⅲ』国土交通省中国地方整備局出雲工事事務所・島根県教育委員会
- 花田勝広2002『古代の鉄生産と渡来人 倭政権の形成と生産組織』雄山閣
- 亀田修一編2003「古墳時代中期・後期の土器」『考古資料大観』第3巻 小学館
- 林大智2004「鉄製品」『八里向山遺跡群』石川県小松市教育委員会
- 白石太一郎・上野祥史編2004『古代東アジアにおける倭と伽耶の交流』国立歴史民俗博物館研究報告第110集 国立歴史民俗博物館
- 福岡町教育委員会2005『ふくおかの飛鳥時代を考える～富山、能登の横穴墓からのアプローチ～』ふくおか歴史文化フォーラム資料集
- 亀田修一2005「地域における渡来人の認定方法 豊前上毛地域を例として」『九州における渡来人の受容と展開』第8回九州前方後円墳研究会実行委員会
- 小林昌二・小島芳孝編2005『日本海域歴史体系』第一巻古代編Ⅰ 清文堂
- 坂野和信2005「畿内と東国の古墳中期における韓半島系食器 丸底と平底食器の系譜」『考古学雑誌』第89巻第三号 日本考古学会
- 田中史生2005『倭国と渡来人 交差する「内」と「外」』吉川弘文館

#### 図版出典

表1～6：新規作成 集成データを基に修正・調整。表7～11：新規作成：主に新村が集成し、各文献を基に修正・加筆。図1～3：新規作成 木内信蔵・山口恵一郎監修1992「日本地図帳」第31版 昭文社「福井県」、「石川県」、「富山県」を基に新村・松尾が修正・加筆。

新村いづみ(創価大学文学部人文学科卒業生) 松尾 実((財)石川県埋蔵文化財センター)